平成３０年度

研 究 集 録

研究テーマ　健康な心と体を育てる環境や活動の工夫

～心と体を働かせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取り組む幼児の育成を目指して～

上尾市立平方幼稚園

資料２５

4 歳 児

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『**健康な心と体**』
年間指導計画と評価・反省

平成３０年度　園内研究課

健康な心と体を育てる環境や活動の工夫
～心と体を働かせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取り組む幼児の育成を目指して～

期	Ⅰ期（4月～5月上旬）	Ⅱ期（5月中旬～7月）	Ⅲ期（9月～10月中旬）	Ⅳ期（10月下旬～12月）	Ⅴ期（1月～3月）
発達の姿	新しい環境で不安や緊張を抱いている時期	気持ちが開放され始め、自分の思いを出して遊ぶ時期	個々の興味や関心が広がり友達とのつながりを求めて働きかけていく時期	気の合う友達と思いやイメージを出し合いながら遊ぶ時期	友達とのつながりの中でいろいろな遊びを楽しむ時期
育てたいこと	○先生や友達に親しみをもち、安心して過ごす ○戸外に出て保育者と触れ合いながら体を動かす ○お弁当の手順を知り、楽しんでお弁当を食べる ○遊具や用具の安全な使い方を知る ○園生活の流れを知り、やってみようとする	○自分の好きな遊具や場所で十分に遊ぶ ○先生や友達とかけっこや鬼遊びなど、体を伸び伸びと動かして遊ぶ ○水、砂、泥の遊びをじっくり味わう ○雨の日の過ごし方や夏の健康に必要な生活の仕方を知る ○園生活の仕方が分かり、進んで取り組む	○戸外で思い切り走ったり、体を十分に使ったりして運動遊びし、心地よさを感じる ○音楽に合わせ、友達と一緒に踊って遊ぶ ○土に触れ、サツマイモの収穫を楽しむ ○防災訓練を通して、災害時の非難の仕方や約束を確認し、大切さを理解する ○身の回りのことや生活に必要なことを自分から行おうとする ○自分たちの生活に必要なことに気付き、当番やグループ活動に進んで取り組む	○たくさんの友達と一緒にルールのある遊びを楽しみ、十分に体を動かして遊ぶ ○栽培物の生長に期待をもって種まきや球根植えを楽しむ ○冬の過ごし方を知り、寒さに負けず健康に過ごす	○寒さに負けず、友達と一緒に戸外で思い切り体を動かして遊ぶ ○友達と一緒にリズムや音楽に合わせて動いたり、踊ったりすることを楽しむ ○栽培物の生長に関心をもって進んで世話をする ○感染症の予防方法を知り、行う ○生活に必要な身の回りのことは、見通しをもって自分でやってみようとする ○様々な活動に意欲的に取り組み、進級への喜びや期待を感じる
環境構成（☆）と教師の援助（◇）	☆すぐに遊び出せるように、遊具や用具を幼児の動線に合わせて配置しておく。また、遊びの様子に応じて、場の広さや遊具の数を調節する ☆片付けしやすいように種類ごとに分けたり、絵表示で始末場所を示したりする ☆幼児が生活しやすい環境になるよう、ロッカーや靴箱、所持品の置き場所などには、マークや絵表示を付ける ◇一人一人との関わりを大切に、スキンシップをしたり会話をしたりしながら信頼関係を築く ◇遊びの様子に寄り添い、思いを受け止めながらしたい遊びが十分にできるように楽しい雰囲気をつくる ◇生活習慣については個人差に配慮しながら繰り返し伝え、幼児が自らやってみようとする姿を認める	☆砂や泥でじっくりと遊べるように道具を用意しておいたり、いろいろな感触が楽しめるように水を溜めておいたりする ☆興味をもった遊びに関われるよう用具や場を用意したり、繰り返しじっくりと遊べるように十分な時間を確保したりする ☆健診に合わせ絵本やエプロンシアターなどの視覚的教材を用いながら健康への関心を高める ◇一人一人の遊びの様子から興味や関心を捉え、必要な用具や場を提供できるようにする ◇教師も一緒に遊びに参加し、戸外の気持ち良さや体を動かす心地よさに共感していく ◇身支度や片付けなど、幼児が進んで行えるような環境やスペースを用意し、できたことを具体的な言葉にして褒めたり、認めたりしていく	☆自分たちでしたい遊びを始められるように、園庭にラインを引いておいたり、用具を使いやすく配置しておいたりする ☆体を十分に動かして安全に遊べるよう、園庭の整備や遊具の点検を行う ☆食べ物に関する教材を用いて、旬の食べ物や調理方法などを紹介し、「食べる」ことへの関心を高める ☆当番やグループが分かりやすいように、色や名前で分け、表を掲示しておく ◇一人一人が体を動かす遊びに取り組む姿や挑戦する姿を認め、体を動かして遊ぶことを楽しみ、自信につながるようにする ◇夏休み明けは個人の様子を把握し、園生活のリズムを取り戻しながら、自分から進んで行おうとする姿を見守っていく。 ◇避難方法や身を守ることの大切さなどを絵本や紙芝居を使って伝えたり、日頃からクラスで話をしたりする	☆すぐに遊びが進められるように場所や用具を用意しておくとともに、幼児の考えや動きに合わせて必要なものを増やしていく ☆図鑑や視覚的な教材を用いて、栽培について興味がもてるようにする ◇教師も仲間に入りながら一緒に体を動かして遊ぶ楽しさに共感しする ◇鉄棒や長縄、うんてい等、いろいろな体の動きを楽しめるような遊びを積極的に取り入れていく ◇火の温かさを感じたり、もち米が蒸ける様子を見たりして、季節ならではの食事に関心をもてるようにする ◇冬の健康について手洗い・うがいの大切さを改めて話し、意識して取り組めるようにする	☆遊びに必要な道具は教師が全て用意するのではなく、幼児が自ら出したり、考えたりする機会も大切にしていく ☆体を動かして表現する楽しさが味わえるように、場を確保したり、必要な道具を用意したりする ☆活動に見通しをもったり、時間を意識しながら生活したりしていけるように時計に触れる機会を増やす ◇寒い中でも戸外に出て日の暖かさを感じたり、元気に体を動かして遊ぶ心地よさを味わったりする ◇冬の健康や感染症について話し、教師も一緒に行う中で予防に努める ◇自分から進んで生活を進めている姿を見守り、具体的な言葉を掛けて褒めることで自信をつけ、進級に期待をもているようにする
主な活動	○発育測定　○砂遊び　○固定遊具　○ままごと ○触れ合い遊び　○かくれんぼ　○ボール遊び ○積み木　○ブロック　○避難訓練	○砂・泥・水遊び　○プール ○おおかみがきたぞ　○巧技台　○内科健診 ○歯科検診　○カレーパーティー　○避難訓練	○発育測定　○リズム遊び　○お芋ほり　○鉄棒 ○ボール遊び　○しっぽとり鬼　○ヘビじゃんけん ○リレーごっこ　○当番活動　○避難訓練	○野菜の栽培（二十日大根）○氷鬼　○長縄 ○ころがしドッジボール　○おもちつき　○避難訓練 ○花の栽培（チューリップ・ヒヤシンス）	○発育測定　○お正月遊び　○ドロケイ ○ドッジボール　○オペレッタ　○お別れ会 ○野菜の栽培（ジャガイモ）○避難訓練
評価・反省（幼児の育ち）	・一人一人との関わりを大切にし、会話をしたり一緒に遊んだりする中で関係を深めた。４歳児にとって担任（周囲の大人）の存在はとても大きく「先生と一緒」ということが活動の原動力になることが多かった。そのことを意識して関わることまた保育を計画していくことが重要になると感じた。 ・お弁当の時間をとても楽しみにしている様子である。偏食の目立つ幼児が多くいるので、園でのお弁当だけでなく、家庭の状況とも照らし合わせながら連携を図る必要がある。 ・生活習慣では毎年の課題であるハンカチとちり紙の始末を定着できるよう表示を使用し、始末場所を示した。表示を見て始末を行う幼児もいたが、家庭生活の影響が強く、個人差もあり、繰り返し声をかけたり、教師も一緒に行ったりと、かかわりの中で言葉を使い伝えた方が効果的であった。	・少しずつ好きな場や遊び、気の合う友達が見つかり始め、同じ場で遊ぶ姿が見られ始めた。鬼遊びでは「しっぽ取り」や「おおかみがきたぞ」を取り入れ、遊びの中で友達と関わり、体を思い切り動かす楽しさを感じられるようにした。 ・砂遊びでは動線に合わせて道具を置いたり、場を設定しておき、遊びが続いていくよう心がけた。水を出し始めると「お風呂」「道路工事」などイメージを膨らませながら、砂や水の感触を存分に味わう姿があった。反省としては教師側の準備不足で泥の経験ができなかった。個人では到底管理しきれるものではないので、早めに声を掛け合い準備を進め、経験を逃さないように気をつける。 ・１学期間は意識して「着替え」をするようにした。はじめは表裏や着脱が困難だった幼児も、学期の終わりごろには自分でできるようになったことも多く、日々の積み重ねの大切さを感じた。	・リズム遊びでは曲に親しみ、体を動かす姿が見られた。運動会後には年長児や親子で踊ったリズムを繰り返し踊って楽しむ姿があり、この頃から「友達と一緒に」という意識も芽生え、大勢の友達と過ごすようになっていった。幼児が満足いくまで十分に遊んだり、取り組んだりできる環境（場所や時間）がとても大切だと感じた。 ・お芋堀りではお芋を掘りに行く前に月間本や教材を使って芋の種類や芋の掘り方などの話をした。また、今回は育ててくださった農家の方の存在があることも知らせ、食べ物に感謝の気持ちをもつ大切さについて知らせていった。また、併せてハツカダイコンの栽培も行っていったことで、毎日世話をすることの大切さや収穫できた喜び実感できたと思う。 ・避難訓練に関しては一学期からの積み重ねがあり、状況に応じて自ら動こうとする姿が増えてきた。一方で「慣れ」を感じる場面もあったので、日頃から折に触れて災害の話をし、緊張感も大切にしながら経験を増やしていけるようにする。	・戸外では転がしドッジボールや鬼遊びなどを大勢の友達と楽しむ姿が多く見られるようになっていった。友達と関わる中で思い切り走ったり、ボールを勢いよく投げたりとさまざまな体の動きがスムーズになったように思う。互いに影響を受け、長縄や鉄棒では「できるようになりたい」という気持ちも育ち、挑戦する姿に変わってきている。 ・植物の栽培ではチューリップが咲くのを楽しみにしたり、ヒヤシンスの生長の様子を観察したりしている。二学期は継続して栽培物に関わる機会を設けたことで、幼児の意識が自然と植物に向くようになり、興味や関心を高めることができたと感じた。 ・昼食時の当番活動にも徐々に慣れ、喜んで取り組む姿が見られる。友達と協力しながら、自分の役割を果たそうとする姿に日々成長を感じた。一方、個々の生活習慣にはなれと乱れが見られた時期でもあった。「集団」として見られることが増えてきているが、もう一度進級する前に、「個」の力が育ち、発揮できるようになっているかを、一人一人確認したり、把握したりしていく必要があると思う。	・生活発表会への取り組みの中では、音楽のセリフやリズムに合わせて動くこと楽しんでいる様子が見られた。友達と同じように動くことで一体感が生まれ、意欲がさらに高まったように思う。活動の方向性は教師が示しながらも、活動の内容や進め方に関しては幼児の感受性や自然な動きを十分に捉え、「やってみたい」「楽しい」という気持ちを大切に進めること重要だと改めて感じた。 ・２学期課題になっていた個人の生活習慣に対しては、もう一度必要な場面では声を掛けるようにし、意識できるように心掛けた。感染症の予防も兼ね、手洗いやうがいの大切さを幼児と一緒に考えてみたり、進級の話を話題にしながら所持品の始末や時間を守ることなどについて話したりした。個々の家庭環境が大きく影響する部分でもあるので、学期末に向けて改めて保護者への提案や協力も必要になってくると思う。 ・２学期に引き続き、ヒヤシンスの栽培や当番活動では自分から気付いて取り組んだり、友達に声を掛けたりしている姿が多くみられた。１年間を通して継続することで、「やらないといけない」という意識ではなく生活の流れの一つとして自然と行えるようになっていたと思う。

上尾市立平方幼稚園

5 歳 児

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿『**健康な心と体**』
年間指導計画と評価・反省

平成３０年度　園内研究課題

健康な心と体を育てる環境や活動の工夫
～心と体を働かせながら、充実感や見通しをもって生活や遊びに取り組む幼児の育成を目指して～

期	Ⅰ期（4月～5月上旬）	Ⅱ期（5月中旬～7月）	Ⅲ期（9月～10月中旬）	Ⅳ期（10月下旬～12月）	Ⅴ期（1月～3月）
発達の姿	年長になった喜びの中で張り切って環境に働きかける時期	思いを伝え合いながら友達とのつながりが深まっていく時期	友達とのつながりの中で個々の力を発揮し意欲的に取り組む時期	自分たちで生活を進める中で課題に向かって実現しようとする時期	生活や遊びが充実し見通しをもって生活する時期
育てたいこと	○進んで戸外に出て、自分の思いを教師や友達に伝えながら遊ぶ ○安心して過ごす中で、一日の見通しをもち、できることは自ら進んで行おうとする ○好きな遊びを見つけ、じっくりと取り組んだり、友達と一緒に遊んだりする	○思い切り体を動かして遊ぶ心地よさを味わい、様々な遊びに友達や教師と楽しむ ○危険な遊び方や場所が分かり、安全に遊ぶ ○夏野菜の栽培を通し、食への興味・関心をもち進んで食べようとする気持ちをもつ	○自分の体を知り、意欲的に体を動かしたり、いろいろな運動遊びを十分に楽しんだりする ○友達と力を合わせたり、競ったりする中で、自分の力を十分に発揮する ○自分なりの目あてや目標をもち、繰り返し取り組んだり、挑戦したりする	○友達と一緒に全身を使っていろいろな運動遊びやルールのある遊びを楽しむ ○友達と相談したり考えを出し合いながら、遊びを進めることを楽しむ ○共通の目的に向かって友達と一緒に遊びを実現できるようにする ○就学に向けて生活のリズムや生活習慣などを意識したり、自分なりに一日の活動の見通しをもったりする	○自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う ○友達と共通の目的に向かって意欲的に取り組み、充実感を味わう ○園生活や遊びの見通しをもち、友達と十分にかかわりながら進める ○小学校へ入学することに期待をもち、自信をもって行動する ○様々な食べ物への興味や関心をもち、食の大切さに気づき、進んで食べる
環境構成（☆）と教師の援助（◇）	☆年少時との変化は分かり分かりやすいように絵・文字表示を作る ☆幼児のしたい遊びが十分にできるように時間と場を確保する ☆幼児が安心して遊びに取り組めるよう、幼児の興味を探り必要なものを出しておく ◇年長になった喜び、不安を受け止め、一人一人とじっくり関わる ◇園生活を進んで行おうとする姿を認め、年長児としての自覚や自信がもてるようにする ◇教師も一緒に遊ぶ中で、幼児の興味・関心を把握したり、幼児が友達とのつながりを感じたりできるようにする ◇幼児の思いを受け止め、友達に伝えられるように援助したり、足りない言葉を補ったりする	☆天候を考慮し、砂や泥、巧技台など計画的に取り組めるようにする ☆全身を使って遊ぶことができるような遊具や道具を用意する ☆興味・関心に応じて、材料、道具を用意し、自ら試したり、工夫したりできるようにする ☆野菜の生長が分かるように写真や文字を使った掲示をする ◇走ったり、跳んだり、投げたりといった様々な全身運動を通して、体を動かす楽しさを感じたり、自分の体に関心をもったりする ◇友達の言葉や動きに気付かせたり、相手の思いを受け止めたことを認めたりする ◇野菜の世話をする中で、色や形、大きさなどに気付けるように声を掛けたり、気付いたことに共感したりする ◇安全な遊び方を学級で話題にして考え、行動できるようにする	☆年少担任とともに園庭の使用について協議し、時間や場所を確保する ☆興味をもった遊びができるよう、用具や道具を出しておく ☆目当てや目標に応じ、ラインを引いたり、コースを作ったりする ◇幼児がどんなことに興味を持っているかを把握し、一緒に遊ぶ中で、頑張りやできるようになったことなどを認めたり、褒めたりする ◇友達と誘い合って遊べるように守ったり、きっかけを作ったりする ◇自分なりの目当てや目標に向かって繰り返し挑戦したり、取り組んだりする姿を認め、他の幼児にも知らせていく ◇遊びを振り返る時間を確保し、お互いに頑張っていることや、できるようになったことを伝え合い、興味・関心がもてるようにする	☆年少担任とともに園庭の使用や一緒に遊ぶ時間などについて協議する ☆活動の時間と遊びの時間を区切り、メリハリのある生活ができるように活動や時間の表示などを利用する ☆友達と考えを出し合い、遊びを進めることができるように用具や材料を出しておく ☆友達の様子や頑張りがわかるように、伝え合う時間を確保する ◇自分の思いを相手にわかるように伝えることができるように見守ったり、伝え方を知らせたりする ◇幼児の遊びを見守ったり、一緒に遊んだりする中で、幼児のつぶやきや思いに耳を傾け、更に遊びを広げていけるようにきっかけをつくる ◇互いの思いの違いからトラブルになったときには、相手にわかるように伝えたり、友達の思いを受け入れたりできるように一緒に考えたり、援助したりする ◇戸外で遊ぶ中で季節の移り変わりに気付かせたり、寒さに負けず体を動かしたりできるようにする ◇幼児の頑張りや取り組みを認めたり、褒めたりし、他児にも知らせていく。	☆自分の体に興味・関心がもてるように教材を用意したり、時間を設けたりする ☆遊びや活動の振り返りや翌日への期待を伝え合う時間を確保する ☆一日の流れがわかるように、その日の日程を表示し、遊びや活動に見通しをもって自ら行動できるようする ☆小学校に向けて、楽しみにしていることややってみたいことなどを伝え合う時間を設ける ◇自分たちで遊びを進めたり、活動に意欲的に取り組んだりすることができるように見守ったり、降園時に振り返りをしたりする ◇互いの思いの違いで進まない時には、じっくり互いの思いに耳を傾けられるように見守ったり、援助したりし、納得して進められるようにする ◇遊びや活動の時間を区切ることで、小学校への意識や期待が高まるようにする ◇友達と一緒に遊ぶ楽しさ、園生活が終わる充実感など感じたことを受け止め、クラスで楽しんでいた手遊びなどをできる時間を確保し、降園する
主な活動	○砂遊び　○固定遊具　○発育測定 ○避難訓練　○年少児に親しんでいたルールのある遊び	○砂・泥・水遊び　○巧技台　○プール ○野菜の栽培（夏野菜）　○カレーパーティー ○ボール教室　○内科検診　○歯科検診　○避難訓練	○発育測定　○竹馬　○サッカー　○かけっこ ○リレー　○リズム　○ボール教室　○避難訓練 ○野菜の栽培（ダイコン）○お芋ほり	○ドッジボール　○短縄　○缶蹴り　○跳び箱　○マット ○お店屋さんごっこ　○動物園ごっこ　○おもちつき ○ボール教室　○避難訓練	○発育測定　○お正月遊び　○劇遊び　○合奏 ○ドロケイ　○ボール教室　○短縄　○避難訓練
評価・反省（幼児の育ち）	・今年度はクラス替えも担任の変更もなかったため、進級当初から比較的落ち着いて過ごすことができた。身支度や一日の流れを絵で表示したことで、自ら確認をして行動しようという気持ちが出てきたように思う。 ・身支度は進んで行おうとする姿はあるもののペースに差があり、友達を待たせてしまうこともあるため、声を掛けて友達の様子を気付かせたり、時計の表示を利用し決めた時間までに終わらせるようにしたが、なかなか身についていない。 ・年少児に親しんでいたしっぽ取り鬼や色鬼、ごっこ遊びなどを友達と誘い合って遊ぶ姿が多く見られた。転入児が一人で遊んでいると誘ったり、ルールなどを教えたりする姿が見られた。言葉が足りないときやどう伝えていいか困っている時には話を補ったり、伝え方を知らせたりしていくようにした。	・砂場や巧技台で友達と考えたり、試してみたりして繰り返し遊ぶ姿が見られた。幼児のイメージや思いを把握し、実現できるような材料や道具を用意したことで、遊びが広がったり、友達と協力して思いを実現させる楽しさが少しずつ感じられるようになってきている。 ・泥遊びができる日が少なく、なかなか継続して遊べなかったので、暑さの続く２学期始めに計画的に取り入れていき、遊ぶ楽しさだけでなく、体の使い方、力の入れ方など体で感じていくことができるようにしたい思う。 ・夏野菜の栽培では、毎日の世話の大変さに気付き、野菜を作ってくれる人への感謝の気持ちをもったり、野菜への興味・関心が高まった。また、ジャガイモの収穫では、みんなで数をかぞえたり、大きさ比べをしたりすることで、数や形、大きさに興味をもつ幼児が増えた。	・保護者がつくってくれた竹馬に喜んで遊び、繰り返し挑戦したり、目標に向かって取り組んだりする姿が多く見られた。しかし、幼児によって取り組みに大きな差があり、みんなで取り組む時間を設けたり、個々に関わったりしていくようにした。「苦手だな」「できない」と感じている幼児が「やってみようかな」という気持ちに変わった時を見逃さず、じっくり関わったり、できるようになったことを認めたりすることで幼児の意欲や興味が高まっていくことを感じた。また、竹馬を通して、繰り返し挑戦することでできるようになることがあること、頑張ればできるようになるということを多くの幼児が感じることができたと思う。 ・リレーや大玉転がしなど、友達と一緒に遊ぶ中で、勝つ喜びや負ける悔しさを感じたり、友達と協力する楽しさを感じたりすることができた。また、体を動かして遊ぶことにも積極的になった幼児が多く、進んで友達を誘って遊ぶ幼児も増え、体を動かして遊ぶことに更に積極的になったように思う。	・運動会を経験し、更に友達とのかかわりが深まり、誘い合って遊んだり、自分たちで考えを出し合って遊びや活動を進めようとしたりする姿が多く見られるようになった。なかなか友達との意見が合わずに遊びが止まってしまったり、時にはトラブルになったりすることもあったが周りの幼児も一緒に解決方法を考えようとする様子も見られるようになった。時間はかかるが自分たちで解決し、遊びを進めることで、満足感を感じることができたように思う。 ・お店屋さんごっこや動物園ごっこでは、自分の気持ちを相手にわかるように伝えることが難しかったり、うまく伝わらずに葛藤したりすることも多かった。また、自分の思いだけでは進めていけないことを実感し、気持ちに折り合いをつけたり、相手を受け入れたりする経験が多くできたように思う。 ・活動でも遊びでも苦手なことやできないと思っていることに対して消極的だったり、避けたりしようとしてしまう幼児もいるので、教師が遊びや活動を工夫し、自ら進んで取り組んだり挑戦したりすることができるようにしていきたいと思う。	・３学期になって改めて自分の体などについて見たり、健康について話をすると、知っていることが増えていたり、教師の話を意欲的に聞く幼児が増えた。また、話をした後から、手洗い・うがいを丁寧にしたり、友達と声を掛け合って行おうとする様子が多くみられるようになった。 ・行事や活動が入ることがとても多いので、一日の予定を表示し、知らせるようにした。表示しているだけでは字の読めない幼児や興味のもてない幼児にはなかなか伝わらないので、朝、みんなで予定や時間を確認してから遊びや活動に入るようにした。みんなで確認することで個々に意識するだけでなく、互いに声を掛け合って過ごすことができるようになった。 ・寒い日にも進んで戸外に出ていき、友達と誘い合って走ったり、体を動かしたりして遊ぶ姿が多くみられた。「寒いから行きたくない」などと言う幼児は見られず時には汗をかきながら友達を追いかけて、友達との時間をとても楽しんでいる。

上尾市立平方幼稚園